



# おくすり通信

## No. 53 PTH製剤～骨粗鬆症治療薬～

こんにちは、薬剤科です。今回は副甲状腺ホルモン(PTH)製剤に分類されるお薬についてご紹介します。このお薬は注射製剤であり毎日注射するもの、週1回、週2回注射するものなど特徴的な用法が存在します。

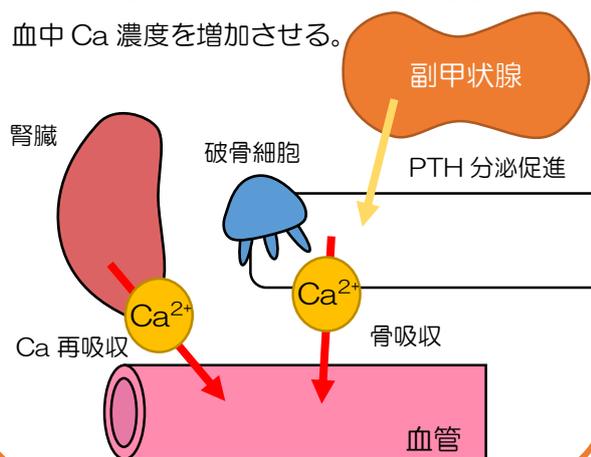
### 《PTHの働きとPTH製剤の作用機序》

副甲状腺とは甲状腺の背面に位置し、PTH(パロトルモン)と呼ばれるホルモンを分泌する臓器です。PTHは、血中Ca濃度の調整をしており骨に対しては破骨細胞を活性化、腎臓に対してはCaの再吸収を促進させ、血中のCa濃度を増加させます。

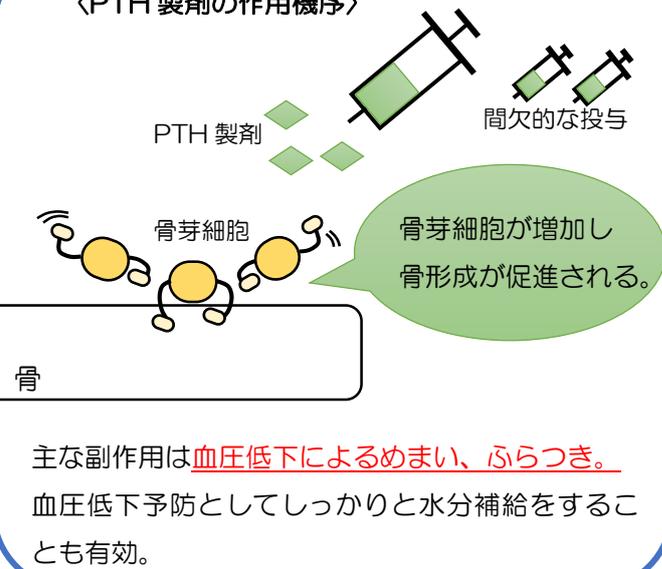
PTH製剤は間欠的にPTHを投与することで、骨芽細胞の生成の促進、自壊の抑制により骨芽細胞数を増加させます。骨芽細胞は骨を作る細胞であり、増加することで骨形成が促進され強い骨を作ることが出来ます。

#### 〈PTHの働き〉

血中Ca濃度が低い場合・・・  
骨吸収促進、腎臓からのCa再吸収促進によって  
血中Ca濃度を増加させる。



#### 〈PTH製剤の作用機序〉



### 《PTH製剤》

PTH製剤の内、フォルテオ皮下注キット600 $\mu$ g、テリボン皮下注オートインジェクター28.2 $\mu$ gは自己注射可能なお薬です。当院ではお薬の保管方法、手技等を説明し、実際にその場で自己注射をしてもらうことで正しく注射が出来ているか一緒に確認をおこなっています。

PTH製剤	回数	投与期間
フォルテオ皮下注キット600 $\mu$ g	1日1回自己注	24ヶ月間まで
テリボン皮下注用56.5 $\mu$ g	週1回通院で皮下注	
テリボン皮下注オートインジェクター28.2 $\mu$ g	週2回自己注	

投与期間の延長や過剰投与は骨吸収>骨形成となり骨量が減少する

注射後、血管拡張作用で血圧低下によるめまい、ふらつきなどがみられることがあるため、30分程度安静にしてくださいよう指導しています。注射する時間に決まりはないため、ふらつきを防ぐために就寝前に自己注射することをおすすめしています。

そのほか気になる点がございましたら、お気軽にご相談ください。